

# 令和8年度第1回和光市児童発達支援施策推進協議会

## 会議録（要録）

- 【日 時】 令和8年7月29日（水） 15時00分～16時00分
- 【場 所】 和光市役所3階 庁議室
- 【出席者】 すこやかかわこう およこサポートクリニック 理事長 勝又 大助（会長）  
児童発達支援センターやまぼうしセンター長 貝塚 玄太  
子ども家庭支援課長 飯田 真子  
障害福祉課長 三富 応樹  
ネウボラ課長 堀江 和美  
ネウボラ課母子保健担当統括主査 松岡 知佳  
保育センター所長 沢田 潤子  
教育支援センター長代理人 教育支援センター長補佐 金澤 勇一
- 【欠席者】 教育支援センター長 隅田 浩文
- 【事務局】 子どもあんしん部長 平川 京子  
子ども家庭支援課  
富澤課長補佐、遠藤統括主査、日野保健師、秋山主事

### 【議 事】

#### 1. 「こどもの発達を応援する和光市内の公園遊具ガイド」について

##### （1）飯田委員説明（資料1）

- ・柴崎市長の政策公約において「運動療育の視点を取り入れる政策」が掲げられており、市民にとって最も身近な形で推進するため、公園遊具を活用した運動発達促進を周知するチラシを作成した。
- ・掲載する公園は、市内南・中央・北の各圏域からバランスよく4公園を選定し、市内全域の子育て世帯が利用しやすいよう配慮した。
- ・チラシ裏面には、運動発達を伸ばす5つのジャンルと遊具、効果を掲載。例えば、ブランコはバランス感覚、ジャングルジムは手足の協調性と空間認識能力を育むと記載している。
- ・現在、市ホームページおよびSNSで周知中。
- ・児童発達支援センターやまぼうしの理学療法士の協力のもと、わぴあの遊具紹介動画および日常用品（新聞紙等）を使った動画を作成。今後Instagramで発信予定。

##### （2）質問・意見等

#### 勝又会長

公園の利用状況、来場者数の変化は把握しているか。

## 飯田委員

公園への来場者数の増減は現状把握できていない。チラシ配布による効果検証は今後の課題と認識している。

## 金澤教育支援センター長補佐

動画の配信開始時期はいつか。チラシのショート動画も作成してはどうか。

## 飯田委員

チラシのショート動画の作成も検討したい。動画配信は最終調整中であり、近々公開できる見込みだが、具体的な時期は未定。

## 2. 5歳児健診と就学相談の連携

### (1) 堀江委員説明（当日配布資料：5歳児健康診査の問診票）

- ・令和8年2月に、隅田教育支援センター長、ネウボラ課松岡統括主査、塩川主任、子ども家庭支援課富澤課長補佐で打ち合わせを実施した。連携推進に向けた情報共有の必要性を確認した。
- ・令和8年度から5歳児健康診査の問診票に、「教育部局等からの問い合わせがあった場合」について「就学相談」を心理欄に追記した。追記の目的としては、家族の情報提供同意の確認、就学相談を案内した児童の把握である。
- ・本格的な情報連携は、令和9年度の就学相談から開始予定。具体的な活用方法については、引き続き打ち合わせを行っていきたい。
- ・令和7年度の5歳児健康診査の実績は、対象者623人に対し、受診者数は607人となっている。受診率は、97.4%。
- ・令和8年度開始から3か月時点で、就学相談に丸がついた児童は1名。現状は、ひまわり教室や療育紹介が先行するケースが多く、いきなり就学相談に至る事例は少ない。
- ・今後の課題として、ひまわり教室や療育先と就学相談との連携強化が必要。

### (2) 質問・意見等

## 勝又会長

5歳児健診で課題のあるこどもが支援に誘導されているか。全員が誘導されているかが重要ではないか。

## 堀江委員

当日の心理相談受診割合は全体の約2割。心理相談の内容には濃淡があり、診断名がつく場合から様子見まで様々。過去と比較して急激な減少はみられない。

## 勝又会長

朝霞地区4市の中で和光市がこの取り組みのお手本となっている。志木市が今年度から開始、新座・朝霞市は未実施。和光市での取り組みの効果検証や就学後の連携強化が他市の参考になることを期待する。

### 3. 令和7年度和光市児童発達支援センターやまぼうしの活動実績と今年度の方針について

#### (1) 貝塚委員説明（資料2）

- ・国の基本指針に基づき、「障害のある子ども本人の最善の利益の保障」を目的として、重層的な地域支援体制の構築を推進するため、児童発達支援センターが設置された。
- ・和光市の児童発達に関する当初の課題としては、相談窓口がわかりにくい、支援につながるまでに時間がかかる、心理相談・専門外来の予約が取りにくく療育が遅れる等が挙げられている。
- ・児童発達支援センターやまぼうしの現状と課題、今後の展望は以下のとおり。

#### 〈児童発達支援事業〉

当初は専門職の配置が十分でなかったが、児童発達支援管理責任者を2名体制にし、作業療法士（OT）等の専門職を段階的に配置してきた。現在は、個別療育の実施や午後の療育時間の拡充が可能となっている。今後は、小集団療育および個別療育のさらなる充実を図っていく計画である。

#### 〈放課後等デイサービス〉

これまでは児童発達支援事業のフロアと共有してサービスを提供していたため、スペースが手狭であり、受入れ定員の拡大や医療的ケア児の受入れに限界があった。1日あたりの受入れ人数は最大7～8名に留まっていた。令和8年度に施設が増設されたことにより、療育スペースが独立して確保され、1日あたりの受入れ人数が11～12名程度まで拡大した。また、7月からは新規に医療的ケア児1名を受入れ、現在は計3名の医療的ケア児が利用している。今後は、児童発達支援事業と放課後等デイサービスを併設して運営するという強みを活かし、乳幼児期から小学校卒業まで一貫した切れ目のない支援体制の確立を目指していく。

#### 〈相談支援事業〉

開設当初から、職員の定着やスキル向上、事業所全体としての運営スキームに課題を抱えていた。その後、和光市中央地域生活支援センターからの指導・協力を受けながら、相談員一人ひとりのスキルが徐々に向上し、計画相談の件数も以前と比べて大きく伸びてきている。令和7年10月からは、障害福祉課の協力のもと地域生活支援センターとしての業務委託を開始した。今後は、和光市を中心とした地域における児童の発達支援の相談窓口としての機能確立を目指し、障害福祉課とも連携しながら、一般相談・計画相談の両面で件数・対応力のさらなる向上を図っていく。

- ・地域活動としては、よりみちカフェ、ペアレントトレーニング等の保護者支援を実施している。また、保育所等訪問支援、「気づき」の相談（一般相談）、就学相談会を展開。ひまわり教室との連携を推進していきたい。
- ・市の令和8年度目標である「医療的ケア児受入れ可能な放課後等デイサービスの1事業所確保」を、児童発達支援センターやまぼうしとして担う。
- ・令和8年度から「すこやかかわこう おやこサポートクリニック」との連携強化を推進していきたい。

## (2) 質問・意見等

### 堀江委員

5歳児健診フォローについて、児童発達支援センターやまぼうしに児童発達支援センターとしての機能を活かした協力をお願いしたい。5月に実施した「子どもの発達についてのおしゃべり会」のニーズはどうか。

### 貝塚委員

利用者保護者のみならず一般の方も参加があった。実績は後日報告する。ペアレントトレーニング（年4回）は、やまぼうし利用児童の保護者を対象に、困り事の共有等を行う場として実施している。

### 三富委員

地域のインクルージョン推進と機関連携に、「やまぼうし主催の就学相談会」が記載されているが、その実績を伺う。また、市内事業所の質向上を目的とした事業所向け学習会の実績についても教えてほしい。

### 貝塚委員

申し訳ないが、いずれもまだ実績はなく、今後取り組んでいきたい目標として掲げているものである。

### 三富委員

それでは、令和9年度の具体的な計画を教えてほしい。

### 貝塚委員

相談支援事業が地域生活支援センターとして運営を開始したことで、そこに寄せられる相談をもとに、就学前の相談会を実施していきたいと考えている。また、ひまわり教室含め市内事業所の質向上のため、事業所向け学習会（ソーシャルスキルトレーニング）を行いたいと考えている。

### 三富委員

具体的な頻度はどれくらいを想定しているか。

### 貝塚委員

就学相談会については、秋から年明けに2回くらいを想定している。また、ひまわり教室については、ネウボラ課と協議中であるが、月2回土曜日に大体1時間半程度を想定している。

### 三富委員

すこやかかわこう おやこサポートクリニックとの日常的な連携とは、具体的にどのようなことを行う予定なのか。

### 貝塚委員

医療的ケア児の受入れにあたって生じる諸課題や保護者対応上の課題を、すこやかかわこ  
う およこサポートクリニックと共有し、連携して対応していくことが当初からの計画で  
あった。これまでなかなか連携が進んでいなかったが、令和 8 年度から本格的に動き出し  
ていきたいと考えている。

### 三富委員

具体的にいつから実施するのか。

### 貝塚委員

長らく課題となっていた部分でもあるため、令和 8 年度中に向けて早期に動き出したい  
と考えている。

### 三富委員

令和 8 年度目標達成に向けたロードマップで、市の令和 8 年度目標のなかに、放デイ 1  
事業所確保とあるが、具体的な内容を伺う。

### 貝塚委員

医療的ケア児を受け入れられる放課後等デイサービスがなかったことへの対応として、  
令和 8 年度に施設を独立増設し、現在 3 名の医療的ケア児を受け入れている。やまぼうし  
が医療的ケア児を受け入れられる放課後等デイサービスとして確立・運営していくという  
意味合いで記載している。

### 飯田委員

地域生活支援センターを開設し、相談件数は増加したか。また、令和 8 年度から巡回相  
談の委託を受けていると思うが、どのような状況か。

### 貝塚委員

計画相談件数は当初の十数件から現在は約 70～80 件まで増加している。ただし、困難  
ケースへの対応については、和光市中央地域生活支援センターで精査した案件を中心に対  
応している段階であり、自所でのスキーム構築が引き続きの課題となっている。

巡回相談は、保育園や幼稚園に月に 2 から 3 件行っている。

### 堀江委員

市民の窓口を目指したいとは、具体的には何か。

### 貝塚委員

あくまで、児童発達支援における窓口を目指している。

## 堀江委員

児童発達支援センターやまぼうしに相談に行くと、具体的な事業所等を教えていただけるということか。

## 貝塚委員

臨床心理士の配置ができていないため、心理検査がとれない。今後、臨床心理士を配置し、適切な心理検査や関係機関につなぐことができるように体制を整えることも検討したい。

## 飯田委員

小学校就学に向けた一般保護者向け就学相談会（年2回程度）の内容は、教育委員会の就学相談と方向性が重複・矛盾しないか。保護者が混乱しないよう情報連携・同意取得が必要ではないか。

## 貝塚委員

教育委員会との方向性のすり合わせは想定できていなかった。今後、教育委員会と具体的に協議・調整していく。

## 金澤教育支援センター長補佐

現在、来年度就学予定児童のうち80名超の面談が完了。児童発達支援センターやまぼうしからの紹介も複数あり助かっている。今後の連携強化に期待する。なお、教育支援センターが近隣に移転予定であり、連携がさらにしやすくなると考えている。

## 4. その他

（1）すこやかわこう およこサポートクリニックについて 勝又会長説明

- ・すこやかわこう およこサポートクリニックは主に1歳半までの乳幼児を対象とし、発達の問題を早期にスクリーニングする役割を担っている（発達障害の専門外来ではない）。
- ・開院5年目だが、患者数は目標の2分の1にとどまっており、認知度・利用促進が課題。
- ・市との連携として、4か月健診・10か月健診の要フォロー児への対応、2か月児発育発達相談を実施中。
- ・課題として、4か月健診でチェックが付いた児童がクリニックに来院しないケースが多い（月約5名程度）。4か月～10か月健診の間に問題を見逃すリスクがある
- ・発達障害の予防・軽減には、親の意識向上と適切な関わり方の習得が重要であり、問題が顕在化する前の早期介入が効果的と考えている。
- ・児童発達支援センターやまぼうしとの連携により、乳幼児期からの親支援・早期介入を推進したい。具体的には、クリニックからやまぼうしへの誘導、役割分担による効率的な支援体制の構築を目指す。今後1年間、この取り組みに注力したい。

（2）地域子育て公開講座について 貝塚委員説明

- ・「子どもは自分のちからで動きだす」というテーマで、講演会を行う予定。講師は、藤

原里美氏。日時は、10月16日（金）18時から19時30分。

（3）事務局

- ・次回協議会は、令和9年1月頃を予定。

以上